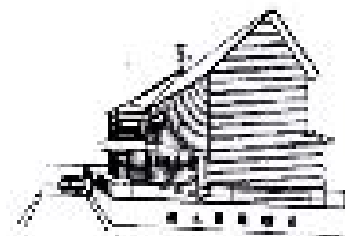


< 第一主日 3 日の聖書から > “創世記”を開きます。毎日が忙しくて、何故私たちがいるのか、そんなこと考える余裕もないかもしれませんが、その毎日を生きている私たちも、実は神様によって創造され、正しく平和に生きていくように、そして御旨にかなうものであることが“神様ご自身の証し”として今も造られていることを、忘れないでゆきましょう。科学には、初めに“法則”があって宇宙は“元々あった”、そしてそのことは問わないと考える時代がありました。かなり以前から宇宙は広がり続け、星がだんだん遠くの存在になっていくことも分かっていたから、やがて、ただただ広い何にもない宇宙になっていくとされていました。30 年以前には、“その様な問いは持たない、なぜなら私たちがいるからだ”と教えられていました。ところが最近小さな子供の読む“宇宙と天体”などという図鑑にも“宇宙は今から157億年ほど前に、その理由は分かりませんが、大爆発とともに、一つの点から出来た”と書かれるようになりました。自然科学では“そんなことは文学者が哲学者に任せておけばよい”と考えられていた“宇宙の創造”すなわち“物質と電磁波の創造”を研究対象とするようになったというわけです。聖書はこのことに対して既に“神様が創造された”という答えを持っていました。これから先のことも神様はすでに備えていることでしょう(ヨハネ黙示録 21:1 には“わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった”と啓示されています)。創世記を見ますと、バベルの塔の出来事に至るまでは、違う言葉などで話す、ということも、ノアの洪水が治まるまでは、動物を食物にするということも恐らく、考えられなかったことでしょう。今私たちは“最初菜食だった”ということができるように、神の国から私たちは今の世界を“罪と闘った世界”として見る事ができるでしょう。宇宙は造られ、30万年ほど経った(今の時計で)時に、光が真直ぐに進む事が出来るほどに宇宙は大きく広がったものになりました(子どもの本にもそのように記されるようになりました)。“光あれ”と3節にある出来事の次第はこの様なものだったのです。この年も、神様の造られた“はなはだ良いと言われた”素晴らしい世界に私たちは、1:27にある様に“神は自分のかたちに人を創造された。神のかたちに創造し、男と女とに創造された”素晴らしい存在として生きて行こうとしているのです。“キリストの僕として心から神の御旨を行い、人にではなく主に仕えるように、快く仕えなさい”とエペソ書6:6~7にあります。誘惑の結果である悪の中でも、善を私たちは行うことが望まれているのです。それが信仰者の知る神の道なのです。

週報

2010年 1月 1日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042